

11

2019
霜月
NOV

突

気になつたら直ぐに病院へ

突発性難聴とは、ある日突然、何の前触れもなく、耳が聴こえなくなる病気です。

2001年の調査で、全国での患者数は年間35,000人(275人／100万人)とされています。かつての統計では40歳代から50歳代の女性に多く見られましたが、最近では10代から20代の若い方、また男性も増加傾向にあり、年齢や性別においての偏差は見られなくなってきています。突発性難聴は、いつ、誰に発症してもおかしくない病気なのです。そしてさらに怖いことは、突発性難聴の確実な原因が不明なこと。

突発性難聴は、正確な診断と一刻も早い適切な治療をすることによって治すことが可能です。発症してしまったときに、正しい対処ができるようにこの病気に対する理解をしておきましょう。

発症から一週間以内に治療を

突発性難聴を治すためには、早期治療が重要です。治療するうえで最も大切なことは、何よりも一刻でも早く治療を開始することです。統計によれば、発症してから…つまり耳が聞こえなくなった瞬間から、48時間以内に適切な治療を開始できた場合は治癒できる方が多く、遅くとも1週間以内に治療しなければなりません。一般には、発症して、約一ヶ月で聴力は固定すると考えられており、それ以降の場合、聴力改善は困難と考えられています。



突発性難聴の前兆

突発性難聴の前兆として大きく5つあげられます。これらの前兆があった後に耳が聞こえにくくなった場合には、まず突発性難聴を疑ってみる必要があります。

- 耳の閉塞感（耳がつまっている感覚）がある
- 聞こえがおかしい
- 平衡感覚がおかしい（めまいがする）
- 耳鳴りがする
- 強いストレスを感じている

